



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2014
9月1日号

142
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (659)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

市民公開講座



副会長 遊 佐 烈

7月12日(土)「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」がコラッセふくしまにて開催されました。放射線測定機器展示・相談コーナーには21名の市民の方々が来場され、福島県診療放射線技師会会員が相談員として市民の方々のご相談に対応しました。公開講演では住民の皆様が特に心配されている“食について”と原発廃炉後も長期間続く“低線量長期被ばくについて”を主テーマとし、講演後には参加して頂いた皆様からの質問にも答えて頂く企画と致しましたが、今年は54名の参加にとどまりました。毎年行ってきた市民公開講座ですが、年々参加される市民の方々が少なくなることに對し、企画する立場からは広報の問題なのか、市民の方々が落ち着いてきているのか、それとも進まぬ除染問題のため諦めて少なくなっているのか、この講演会自体が本当に必要なのだろうかなどと考えてしまいます。市民公開講座の前に「放射線技師のためのリスクコミュニケーション」を行って下さった日本放射線技術学会の先生や市民講座の講師をして下さった放医研の先生方からは「不安を抱えている方がいるなら何時でも福島に来ますよ」という暖かい言葉を頂き、今後も続けて行く必要性を教えられました。原発事故直後は色々な情報が錯綜し、多数の市民を対象とする講演会規模が必要でした。避難所でのスクリーニング活動を行ったことで放射線技師の存在を多くの市民の方々に知って頂きましたが、3年以上が過ぎたこれからは規模を縮小しながらでも続けていく事の重要性、生活の中で少しでも放射線に対して不安や疑問が生じた時に、我々放射線技師に質問して頂き、理解し、安心して頂ける状態を作っていく事、これも私達診療放射線技師の務めであることを再認識しています。

今回の相談コーナーでは、環境放射線量測定を希望される方には無料で福島県診療放射線技師会から技師を派遣させ、ご自宅の環境放射線測定を始めました。今回最初の測定依頼があり測定員の調整を行った上で7月27日(日)にNaIシンチレーションサーベイメータとGMサーベイメータ持参でご依頼されたお宅に3名で行って来ました。若いご夫婦でお子さんが小さいために色々心配されています。駐車場はアスファルトのためGMサーベイメータでの高線量場所の探索、NaIシンチレーションサーベイメータで環境放射線量を測定していきます。部屋の中でも同じように心配されている内容をお聞きしながら細かく各部屋を測定していきます。測定結果をお知らせしながら健康への影響について心配されるレベルではない事、今後の生活に必要と思われる食べ物に対する安全性、健康のために必要な放射線検査のリスクとベネフィットに関してお話をさせて頂きました。ご自宅での対応になりますから、色々質問されます。それに対して時間をかけながら納得されるまでご説明しました。最後は安心されたように思います。今後も依頼があれば福島県診療放射線技師会としてこの訪問測定を続けて行きたいと思っています。これからはこのような個別の対応もどんどん取り入れてまいりますので、会員の皆さんもNaIシンチレーションサーベイメータとGMサーベイメータの取り扱い方を再度確認しておきましょう。そして市民の方々から質問を受けた時に、答えられる知識も準備しておきましょう。

「リレー・フォー・ライフ・ ジャパン2014福島」

リレー・フォー・ライフとは1985年にアメリカ・ワシントン州で外科医のゴルディー・クラット医師がアメリカ対がん協会の活動資金を集めるために、24時間夜通しで大学のトラックを回り続け、友人たちはクラット医師が30分トラックを走るか歩いたたびに25ドルを寄付し、最終的には2万7千ドルの寄付を集めたのが始まりで、翌年からはチーム・リレー形式になり24時間歩き続ける中で、がんと闘う連帯感を参加者が持ち、単なる資金集めだけではなく地域社会全体でがんと闘う絆をはぐくむ活動として広がっていきました。

福島では2010年に第1回目が、福島県立医大病院のグラウンドを会場として行われ、当時の鈴木憲二会長も参加されました。翌年の3月に東日本大震災がおり、放射線問題で外での開催が困難となり町の体育館を使ったりしながらの開催となってしまう、技師会としては後援として募金だけは続けていました。今年の理事会で参加する事を決定し準備に入りました。会場はあづま総合体育館メインアリーナで、宿泊設備もあるとの事でしたので夜越える参加者の負担も考え4部屋確保しての参加です。福島県立医大病院から25名の放射線技師と2名の医師が参加してくれました。4つのグループに分け、それぞれ自分の体力や参加できる時間帯を調整しながら分担を決めています。



8月2日(土)、朝から夏の暑さで、あづま総合体育館には大勢の参加者が揃いのオレンジ色のTシャツを着て集まってきました。外は少し歩くだけで大粒の汗が流れ落ちます。2階観客席にはグループ毎のスペースが準備されており、そこで技師会のフラッグとノボリを準備、熱中症対策として持ち込んだ飲み物も用意して準備完了です。メインアリーナには1周200m強の周回コースが準備されました。参加グループ数は42チームです。最初にゲストとしてアグネス・チャンさんもがん体験者として挨拶

をしてくれました。そのアグネスに勇気づけられてサバイバズラップとってがん経験者だけが最初の1周をまわってから、それぞれのグループがスタートしていきます。私たちのチームには2名のサバイバーがいます。他のチーム同様、私達のグループもフラッグとノボリを持って歩き続けます。休むことなく、途切れることなく、途中交代しながら黙々と、時には談笑しながら皆と歩きます。



そんな歩き続ける私達を応援するために、フラグダンスのグループや幼稚園児のマーチングバンドの演奏、霊山太鼓保存会の演奏が行われ、早いグループもあればゆっくりのグループといったそれぞれの歩みで繋いでいきます。夜にはルミノリエといって亡くなった友人・親・恋人・子供を偲んでメッセージ入りの灯籠にLEDの灯りのみで会場の明かりは消して歩きます。夜越える時間帯は休んでいるグループも多いのか歩き続けている人数もだいぶ少なくなります。私達のグループは1度も途切れることなく繋いでいきます。運動不足のためか、体力が無いのか、足が痛くなり、腰が痛くなり、股関節が痛くなりましたが何とか皆で途切れることなく、繋げる事が出来ました。最後の時間帯を歩いた皆もそれぞれ疲れているのに、フラッグとノボリを繋ぎ通したという達成感で自然と笑顔がこぼれます。やって良かったという気持ちとともに、家に帰って風呂に入り、冷えたビールを飲んだあの旨さがやみつきになりそうな二日間でした。

(遊佐副会長)

《お詫び》

先の総会にて消化器分科会の代表者名を誤ってお伝えしました。正しくは、消化器分科会の代表者は、県北地区 佐藤美千男会員です。ここに訂正させていただきます。各位様へご迷惑をおかけしました。

新里学術委員長

『放射線・放射能を正しく
理解するための市民公開講座』
並びに『市民相談会』開催される

平成26年7月12日(土)福島市コラッセふくしまにおいて『市民公開講座』並びに『市民相談会』が開催された。これは福島県診療放射線技師会が主催となり、後援に日本放射線技術学会東北部会、福島県医師会、福島県、また日本放射線技術学会防護分科会の協力のもと開催された。開催前の午前中には放射線技師を対象とした「市民対応のための会員向けリスクコミュニケーション」の研修会が行われた。ここでは放射線技術学会防護分科会の五十嵐隆元先生、広藤喜章先生による講義があり、その後、様々な質問を想定したディスカッションが行われ放射線相談に来られる市民の方々への対応に向けた放射線知識の復習と情報の共有が行われた。



午後1時より、一般市民を対象とした『市民公開講座』が開催され、放射線影響に関する正しい知識の提供を目的に2題の講演が行われた。はじめに放射線医学総合研究所の田上恵子先生より「食品の放射性セシウム（料理を食べてから出て行くまで）」と題し講演が行われた。様々な食品に対する測定データより過去（数年前）からの推移や、食材による測定値の違いについてのお話があり、調

理法や加工によっても放射線の値を低くする事も可能であるとの事であった。続いて「低線量被ばく健康影響について」と題し放射線医学総合研究所の島田義也先生より講演があり、低線量被ばく（100mSv以下）についてはリスクが少ないと考えて良く、他のリスクも考え合わせると低線量被ばくによる影響の割合は非常に小さなものであるという事であった。また癌についての仕組みや放射線との関係、小児（胎児）への影響など症例などを交え、大変にわかりやすく解説していただいた。講演後も一般市民より多数の質問があり、参加者の関心の高さがうかがえた。別フロアでは『市民公開講座』と同じ時間帯で、『市民相談会』が行われ、福島県放射線管理士会、放射線技師会スタッフが、市民からの健康や被ばくについて様々な相談を受けた。ご年配の方や子供連れなど、多くの方々が相談会に訪れ、担当者は皆真剣に対応していた。今回はその他にも、測定機器の展示や環境放射線出張測定（無料）の申し込みも行われ大変好評であった。



福島県診療放射線技師会が主催したこの企画は、市民の方々に対して放射線・放射能に対して少しでも不安をなくし正しい知識と情報を提供出来た有意義なものであった。参加された役員やスタッフの皆様、大変にご苦労様でした。

地 区 だ よ り

会 津 地 区

「第84回会津画像研究会」開催

去る平成26年7月11日、山鹿クリニックカンファレンスルームにて、会津画像研究会が開催されました。

はじめに、共催していただいたバイエル薬品株式会社さんから、MRI用呼気炭酸ガスモニターについて話題提供をしていただきました。現在は多くの施設においてパルスオキシメータでの呼吸観察をしているのが現状だと思いますが、パルスオキシメータのみだと呼吸抑制の発見が遅れてしまう場合があり、また呼吸障害からSpO2低下までの時間にもタイムラグもあります。これを

防止して早期に呼吸抑制を検出するために、呼気の炭酸ガスをモニタリングするMRI用のモニターの紹介とその説明をわかりやすくしていただきました。



次にコニカミノルタヘルスケア株式会社さんから、「最新のFPDとFPD長尺システム」と題して、講演をしていただきました。FPDを使用するシステムとそれを利用した撮影も徐々に普及してきており、今回はとくにFPDをそのまま使用できる長尺撮影用のシステムを画像を交えてご紹介していただきました。

この画像研究会も無事に84回を迎え、目まぐるしく進歩する医療に後れを取らないよう、日々勉強と研鑽を積むことが大事だと思える会になりました。(森谷)

県北地区

「県北地区協議会夏季交流会」開催される



平成26年8月8日(金)、福島テルサにおいて「県北地区協議会夏季交流会」が開催されました。今回は「夏の夜の読影会」と題して、交流会の中で技師の為の読影会を行い楽しみながら勉強することにより、読影力の向上並びに会員同士の親睦を図りたいとの趣旨で行われました。講師は、福島県立医科大学附属病院の宮岡裕一さん、北福島医療センターの高橋大輔さんに行き、CT・MRIの症例を提示しながら全員参加型のクイズ形式で行われました。懇親会中に解説と結果発表が行われとても面白い企画であると好評でした。今回も各施設より多くの参加者があり、様々な意見交換や情報交流の有意義な会となっていました。(池田)

県南地区

「県南地区サマーセミナー」
「ビアパーティ」開催

平成26年度県南地区協議会サマーセミナーが7月26日(土)太田西ノ内病院2号館講義室で開催されました。全国各地で猛暑が記録されるほど暑い日でしたが、勉強熱心な会員の方々45名が足を運んで下さいました。今回は「最近のトピックス・低線量CT(逐次近似処理)について」と題して、講演順に(株)日立メディコ、GEヘルスケアジャパン(株)、(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン、シーメンス・ジャパン(株)、東芝メディカルシステムズ(株)の5社より講師をお招きしてご講演頂きました。今

後CT装置がどのように進化していくのを知り手がかりができ、とても貴重な講演だったと思います。



セミナー終了後は場所を移して、情報交換会を兼ねた恒例のビアパーティが開催されました。新人技師からベテラン技師まで、幅広い年代の方にご参加頂きました。猛暑だったこともあり、出席された方々は冷えたビールを美味しそうに飲んでいました。もちろん、仕事のお話もヒートアップでした。(県南地区学術担当 田代)

浜通地区

X線アナライザー(ピラニア)の取扱説明会開催

6月26日夕方より、新地町の渡辺病院 放射線科にてピラニアの使用方法を教えていただきました。渡辺病院の一般撮影室をお借りして、測定機本体のセットアップの仕方、接続するパソコンのソフトの使い方、そして測定データの処理の仕方を確認しました。



後日、希望する各施設にピラニアをお借りし、一般撮影装置の測定をしました。将来、機器の更新や新規購入があれば、県技師会からお借りして測定をしてみたいと思います。(菅原)

編集後記

相次いで通過した台風により、各地で甚大な浸水被害が生じています。これから更に台風による災害が懸念されますが、ちょっとした気づきから、早めに手当てをしておく事、何事も大事に至らせないためには小さな事の積み重ねが肝要ですね。(白石)